

# メディカルタウンの自分力

## ～救済の客体から解放の主体へ～

ケアや治療を受けているお年寄りや子ども、患者たちは、自らも気付かない「力」を秘めています。本人がその可能性に気付き、主体性を引き出せるケアや環境とは、どんなものでしょうか。治療でも予防でもない、未来型の医療と健康支援を考えます。

- はじめに 30年後の医療の姿を考える会 会長挨拶 秋山 正子
- 基調講演 13:35～14:30  
「メディカルタウンの自分力 ～「健康増進外来」の取り組みから」  
佐藤 元美 (岩手県一関市国保藤沢病院 事業管理者)
- パネルディスカッション 14:45～16:15
  - ・ デイホームから街中サロンへ ～ケアされる人から支え合う人に  
飯島 恵子 (NPO法人ゆいの里 代表)
  - ・ オランダ Buurtzorg のプロフェッショナルリズム ～当事者・家族とともに  
堀田 聰子 (独立行政法人労働政策研究・研修機構 研究員)
  - ・ 自分力を引き出す「暮らしの保健室」  
秋山 正子 (暮らしの保健室 室長)コーディネーター：柳田 邦男 (ノンフィクション作家)  
中村 順子 (秋田赤十字看護大学准教授)
- おわりに「救済の客体から解放の主体へ」  
樋野 興夫 (順天堂大学医学部教授、30年後の医療の姿を考える会顧問)

総合司会：岡本 峰子 (朝日新聞ジャーナリスト学校主任研究員)

入場無料・申込み不要

2012年2月19日(日)

13:30～16:30 ※開場 13:00

聖路加看護大学 アリス・C・セントジョンメモリアルホール

東京メトロ日比谷線「築地」3番出口から徒歩3分

東京メトロ有楽町線「新富町」6番出口から徒歩5分

都営大江戸線「築地市場」から徒歩10分

主催：30年後の医療の姿を考える会、暮らしの保健室、  
NPO法人白十字在宅ボランティアの会

協賛：ブルデンシャル生命保険株式会社、  
日本医業経営コンサルタント協会東京支部 (予定)

後援：朝日新聞、毎日新聞、東京都、NPO法人がん哲学外来、  
がん哲学外来市民学会

問合せ先：暮らしの保健室 FAX03-3205-3115

